

「農業遺産ツーリズム」の特徴に関する研究：ホストとゲストの側面から

松尾 茜

キーワード：GIAHS、ルーラルツーリズム、アグリツーリズム、日本型グリーンツーリズム、農業遺産ツーリズム、ホストとゲスト、ツーリズムの特徴

昨今、地球環境保全の観点から、伝統的農業システムの有用性が再認識されていることに伴い、世界農業遺産(GIAHS)への注目度も高まってきている。農業遺産の「動的な保全」を推進するための有効な手段のひとつとして、農業遺産ツーリズム(AHST)の実践と研究が、東アジア地域を中心に行われ始めている。こういった潮流をふまえ、GIAHSの申請書やアクションプランには、農業遺産認定地域におけるツーリズム振興について多くの記載がある。しかし、それらの記載には様々な用語や概念が用いられており、AHSTについての共通認識が関係者間で醸成されているとは言い難い。そこで本研究では、AHSTの特徴を明らかにすることで、既存のGIAHS認定地域が観光戦略を策定する際の指針となると共に、これからGIAHS認定を目指す地域が申請書やアクションプランを作成する際の参考となることを目指した。

本研究の概念枠組みは、観光におけるホストとゲストの側面から設定した。AHSTは日本型グリーンツーリズム(GT)と類似していることから、これら2つのツーリズムの特徴を比較することで、AHST独自の特徴が明らかになると仮定した。まずGIAHS専門家にAHSTとGTの違いを問う調査を行った後、AHSTの事例として石川県の世界農業遺産である能登の里山里海で、GTの事例として京都府南丹市で、実際のホストとゲストへの調査を行った。

調査の結果、AHSTの特徴として、以下の4点が明らかとなった。1)ホストが、認定された農業システムならびにその周辺地域ならではの食事や景観を、地域の伝統知識をふまえて観光・教育サービス化し、主に都市部から年5回以下の頻度で訪れるゲストに対し、提供する。2)ホストは、農林水産業の副業、または観光業専業として、観光・教育サービスの提供ならびに地域の農産物やその加工品の販売をすることで、事業の自立と継続をはかる。3)ゲストは、農業遺産システムならびにその周辺地域の農村資源を楽しむのみならず、伝統的な農林水産業やそれに紐づいた文化、農業生物多様性について学ぶことを訪問目的とする。4)AHSTの「専門家」役として、行政や教育研究機関等は、AHSTが農業遺産の動的保全の妨げとならないよう、観光開発の質と量を適宜モニタリングすると共に、ホストに対し、農業生物多様性や、伝統的な農林水産業に紐づいた文化を学ぶことができる観光・教育プログラムの開発を支援する。

本研究により明らかになったAHSTの特徴は、既存のGIAHS認定地域における観光振興を通じたGIAHSの動的な保全、ならびにこれからGIAHS認定を目指す地域の申請書やアクションプラン作成に寄与することが期待される。さらに、行政担当者や研究者といったGIAHS関係者が、今後ツーリズムの観点からGIAHSのモニタリング指標を設定する際にも、本研究で明らかになったAHSTの特徴が活用されうると言える。